



東日本大震災被災校へバス費用援助と希望の備品寄贈

東日本大震災から 12 年が過ぎました。被災した地域や学校の再生はなお途上であり、地元帰還の展望さえ描けない地域も残る福島県をはじめ、岩手、宮城両県を合わせた 3 県の被災校は息の長い支援を求めています。

2022 年度の東日本大震災被災校支援は、岩手県の 29 小学校と 22 中学校、宮城県の 10 小学校と 29 中学校、福島県の 11 小学校と 11 中学校、合計 112 校を対象にしました。支援規模は計 600 万円相当です。各校に必要なものを選んでもらい、バス費用、希望の教育設備品や教材を贈呈しました。

対象校の選定は、2021 年度までと同様、現地の実情に詳しい東北 3 県の小学校長会・中学校長会の協力を得、各県の小中学校別に対象校リストを作成して支援を実施しました。

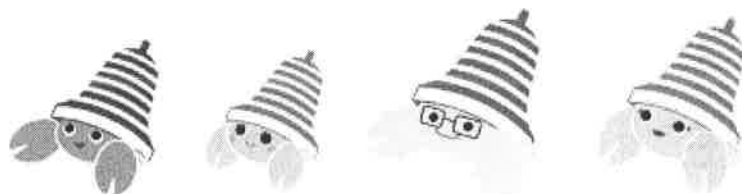
ベルマーク財団は震災直後、3 県と茨城県にノート、鉛筆、クレヨンなど計 800 万円相当の緊急支援を実施しました。その後も 2022 年度までの 12 年間で、被災地支援プロジェクトとして 3 県を中心に延べ 2258 校に対し、計 5 億円相当の支援をしてきました。

これらの支援の資金の多くは、ベルマーク運動参加校・団体のベルマーク活動から生まれています。運動参加団体がベルマーク預金で備品や教材を購入すると、商品を扱う協力会社から代金の 10%相当額が P T A に戻されます。これを「割戻寄付金」として財団に寄付していただきます。これが全額、援助資金となる仕組みです。

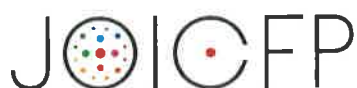
ネットショッピングを通じて東北の被災校を支援する運動をしているウェブベルマーク協会からも助成金をいただきました。さまざまな団体や個人から財団に寄贈されるベルマークや寄付金も活用しています。

東北では、ようやく新しい校舎ができたところもあれば、今なお遠く離れた地の仮設校舎で勉強を続ける学校もあり、置かれている状況の違いがはっきりしてきました。今なお仮設住宅で暮らす子もかなりいます。福島県では原発事故の影響から、郷里に戻るメドさえ立たない家族も多い現状です。

プロジェクト 13 年目に入りますが、これまでと同じように岩手、宮城、福島 3 県の被災校を対象に、積極的に支援を続けます。



女性。選択できる世界を。



公益財団法人ジョイセフ

Japanese Organization for International Cooperation in Family Planning (JOICFP)

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館

Tel: 03-3268-5875 (代表) www.joicfp.or.jp

2022年5月吉日

ご支援いただいたみなさまへ

公益財団法人ジョイセフ

友愛援助ご寄付へのお礼

このたびは、2023年度友愛援助「アフガニスタンの子どもたちへの保健教育活動」を応援していただき、誠にありがとうございます。

アフガニスタンでは、2021年8月に政変が起きました。タリバンというグループが国の政治を取り仕切ることになり、世界の国々がそれに反対し、アフガニスタンへの支援をストップしています。その影響で食べ物が十分に行きわたらない子どもたちも出てきています。その上、新型コロナウイルス感染症も蔓延しています。

長く続いた紛争により、ジョイセフが活動するナンガハール州では、学校の半分は校舎がなく、多くの子どもたちが、校庭にテントを設置したりゴザを敷いただけの青空教室で学んでいます。アフガニスタンの学校では保健の授業がないため、子どもたちが自分たちの健康や栄養などの保健衛生を学ぶ機会が十分にありません。そこで、ジョイセフは、小中学校の先生に協力してもらい、子どもたちに保健指導を行っています。

2021年は皆さまからのご寄付で、27校の7044人の子どもたちに、保健衛生と病気の予防について、保健教育指導を行いました。

子どもたちが学んだ知識は、自分だけでなく、家族の健康を守る大きな力となります。これからも、みなさまのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。





拝啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

私たち「特定非営利活動法人ラオスのこども」の活動につきまして、ご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

このたびは、「ベルマーク友愛援助事業」を通じて、私たちの団体がが進めている「もっと本を！ラオスの子ども達に～ラオスでの小中学校の図書室整備事業～」へご寄付をいただき、誠にありがとうございます。感謝の気持ちを込めまして、お礼状を送付させていただきます。

児童生徒のみなさんにも、日本とは違う状況で暮らす子ども達の様子について、少しでも知っていただく機会になればと思い、お礼状の中に、現地の状況などについても説明しています。併せて、私たちの現地での活動を紹介した「ラオスのこども通信」もお送りいたします。掲示などでご活用いただければ幸いです。

また、ラオスの教育状況、ラオスの子どもたちの様子などについて、ラオス在住経験のある日本人スタッフが、児童生徒やPTAのみなさまに直接お話しに伺うこともできます。オンラインで対応することもできますので、事務局スタッフまで、気軽にお問合せください。

ラオスの子どもたちの支援を続けて42年。一冊の本が未来への扉を大きくひらきます。子ども達が未来をつむむためのお手伝いを、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

敬具

特定非営利活動法人ラオスのこども

代表 チャンタソン インタヴォン

「子供の森」計画を ご支援いただき、 ありがとうございます！



ご支援いただいた皆さまへ

この度は、ベルマーク友愛援助を通して(公財)オイスカが進める「子供の森」計画へご支援いただき、誠にありがとうございました。子どもたちの手による森づくりは、インドネシアをはじめ、世界37の国と地域に広がっています。

度重なる自然災害や社会情勢の悪化など、活動地ではさまざまな課題が山積しており、苦心することも多くございます。しかし、皆様の温かなご支援に支えられ、各地の状況やニーズに合わせた緑化活動や環境教育を継続することができております。今後も世界の子どもたちの成長、森の成長を応援していただければ幸いです。



公益財団法人オイスカ「子供の森」計画担当
〒168-0063東京都杉並区和泉2-17-5
TEL : 03-3322-5161 FAX : 03-3324-7111



「子供の森」計画
情報提供サイト

<https://www.kodo-mono-mori.info/>



保健教育を聞き入る子どもたち



感染予防の手洗いの仕方を学ぶ子どもたち

東ティモールへの温かいご支援に 御礼申し上げます

このたびはベルマーク教育助成財団を通じてシェアをご支援くださり、誠にありがとうございます。東ティモールで、子どもたちの健康を守る予防接種と保健教育の活動のために大切にに使わせていただきます。



海や険しい山に囲まれた東ティモールは十分に道路が整備されておらず、予防接種や病院で診察を受けることが困難な人たちがいます。下痢や肺炎、予防ができる感染症で亡くなる子どもも多くいます。

私たちシェアはすべての人が保健・医療サービスを受けられ、健康に暮らせる社会を目指して以下の活動を行っています。

- ①保健医療施設・設備の整備と維持管理の支援
- ②医療の質の改善のため、予防接種に関する研修の実施
- ③保健ボランティアや小中学校教員による保健教育の支援



予防接種トレーニングを受ける医師



保健教育のトレーニングを受ける教員たち



予防接種のため移動診療に集まる住民



東ティモールはどんな国？

アジアで一番新しい国「東ティモール」は、2002年に独立しました。ティモール島の東側半分が東ティモールで、東京、神奈川、千葉、埼玉を合わせた面積の国土に約120万人が暮らしています。言語はテトゥン語とポルトガル語を話します。

主要産業の農業ではコメ、トウモロコシ、イモ類が盛んで、フェアトレードのコーヒーは日本でも多く飲まれています。

人口の約半数が子どもという、若い人たちの多い国です。

(認定) 特定非営利活動法人 **シェア = 国際保健協力市民の会**

シェアは「すべての人に健康」を理念として、1983年から活動する保健医療専門のNGOです。
“いのちを守る人を育てる”活動をカンボジア、東ティモール、日本で行っています。

〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル5F Tel.03-5807-7581

<https://share.or.jp/>

Instagram・Twitterは「NGO SHARE」でうさぎのマークを検索



ミャンマー(ビルマ)難民キャンプでの図書館活動にご支援いただき ありがとうございます！



タイ国境に難民キャンプが設立されてから38年が経ちました。現在、9ヶ所の難民キャンプで9万1千人難民が暮らしています。難民キャンプでの生活は、NGOなどの支援で支えられていますが、最近はその支援も減ってきており、生活がより難しくなっています。

そんな中、図書館は子どもたちが本を読むだけでなく、安心して遊んだり、学んだりできる場所として、とても喜ばれています。

好きな絵本を読む子どもたち



カードゲームで遊ぶ子どもたち



毎日放課後と土曜日に図書館に通っています。絵本を読んだり、ゲームをしたりできるので、図書館に来るのが大好きです。私の好きな絵本は『いっすんぼうし』です。いっすんぼうしは小さな男の子ですが、大きな心を持っていて、賢くて勇敢な人です。私もいつか彼のような勇敢な人になりたいです。

日本の皆さん、大切なことを教えてくれる絵本と大好きな図書館をサポートしてくれてどうもありがとうございます。

絵本:『いっすんぼうし』(福音館書店)



シンナディーさん



シャンティ国際ボランティア会
Shanti Volunteer Assoc.



公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階 TEL:03-5424-1121 FAX:03-5424-1126
Asahi-Seimei Ebisu Bldg. 12F, 1-3-1 Ebisu, Shibuya-ku, Tokyo 150-0013 Japan TEL:81-3-5424-1121 FAX:81-3-5424-1126
<http://www.unesco.or.jp> E-mail: nfuaj@unesco.or.jp

支援者の皆さま

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さてこのたびは、公益財団法人ベルマーク教育助成財団を通じて公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が行う「ネパール寺子屋プロジェクト」にご支援いただき、誠にありがとうございます。

日本ユネスコ協会連盟は、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」というユネスコ憲章の精神に則り、平和の文化構築のためのさまざまな活動を1947年以来行っています。

1990年、国連の国際識字年をきっかけに、貧困や紛争、戦争などによって教育を受けることのできない人々に教育の機会を作っていこうという運動がユネスコの主導によって始まりました。

日本ユネスコ協会連盟は、江戸時代の寺子屋のような自学自習の自発的な学習文化を世界に伝え、すべての人々が教育を受けられる社会を実現しようと、1989年より「世界寺子屋運動」を開始し、皆様のご支援によって今年で31年目を迎えることができました。海外に寺子屋を作り、人々に教育の機会を作るための活動資金はすべて一般市民の皆様の善意の募金によって支えられ、運動開始以来134万人以上の人々に学習の機会を提供することができました。私たちは今後とも皆様のご協力を得ながらこの運動を積極的に推進してまいりたいと存じます。

グローバリズムが進展する中、平和で豊かな地球社会を築くためには、学習の基礎となる読み・書き・計算の普及がもっとも重要な課題の一つです。引き続き、皆様のご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具



World Food Programme
Programme Alimentaire Mondial
Programa Mundial de Alimentos
برنامج الأغذية العالمي

SAVING
LIVES
CHANGING
LIVES

飢餓から救う。
未来を救う。

2023年4月吉日

ご支援くださった学校・幼稚園の皆様へ

認定 NPO 法人国連 WFP 協会
事務局長

青木 創

このたびは、国連 WFP の活動に温かいご協力を賜り、心より御礼申し上げます。お預かりいたしましたご寄付は、WFP ローマ本部を通じて「アフリカシエラレオネ共和国における学校給食支援」のために活用させていただきます。

国連 WFP は子どもたちの健全な発育と就学率の向上を目指す「学校給食支援」を、世界のおよそ 60 カ国において行っています。

世界では、日々の食事がままならず栄養不良の子どもたちが大勢います。また、学校に通うことができない子どもも多数にのぼります。そのようななか、国連 WFP が無償で給食を提供することによって、親が子どもたちを積極的に学校に通わせるようになり、子どもたちも空腹が満たされ、集中して勉強することができます。教育を受けることで子どもたちは将来への夢や希望を持てるようになり、また教育の普及は社会や国の発展にもつながります。

国連 WFP は過去 50 年以上にわたり、世界中の途上国で学校給食を提供してきました。これからも一人でも多くの子どもたちが国連 WFP の支援を通じて学校に通い、未来の担い手として成長できるよう、温かいご理解、ご協力のほど心よりお願い申し上げます。



国連 WFP の「学校給食支援」 米や豆、野菜が入っています。

ご支援いただいた皆様へ

令和 5年 5月 27日

認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ

友愛援助ご寄付への御礼

この度2023年度友愛援助「こども食堂支援事業」を応援いただき、誠にありがとうございます。

新型コロナの感染拡大が始まって4年目、ようやく普段の生活が戻りつつあり、子どもたちの活動範囲も少しずつですが広がっています。誰も取りこぼさない社会をつくることをビジョンに掲げている私たちは、引き続き各地域のこども食堂ネットワークを支援する事、社会に貢献したいと考える企業・団体とつながりこども食堂へ支援を届ける事、こども食堂の実態を明らかにし、啓発する調査・研究を行う3つの事業を行っています。弊団体の調査で、こども食堂の数はコロナ禍という厳しい状況にあっても昨年も1000箇所以上増え、7363箇所となったことを今年2月に発表しました。こども食堂は、活動が制約され新しい生活様式が求められる中でも創意工夫で活動を模索し、つながり続けることの意義を社会に示してくれています。一方で、昨今の物価高でこのこども食堂も活動資金や物資、食材の確保に苦勞しているのが現状です。

その様な厳しい状況において、むすびえでは皆様からのご支援等のおかげで、2022年度には延べ10000箇所以上のこども食堂に物資を仲介することができました。

この状況がまだ続くことが予測され、引き続き必要としている人たちに支援を届けていく為に、これからもこども食堂の活動に、ご理解、ご協力賜れば幸いに存じます。

Thank you!

